



☆ 春ですね！

今年はやな天気が続いていて、暖かくなったり、寒くなったりの繰り返しですね。それでも、確実に春は来ています。そこそこで、花が咲き乱れて、お散歩が楽しい季節になりました。そこで、今回は、外に出るのが楽しくなるような本を集めてみました。さあ、本を持って、外にでましょう！



さあ、外に出よう！！



絵本・わたしのワンピース

西巻茅子文・絵、こくま社

空から降ってきた一枚の真っ白な布で、うさぎはワンピースを縫います。そのワンピースを着て、散歩に出かけると、周りの景色がワンピースに移って……。

単純でのびやかな線と明るい色彩の絵に、リズムカルな話し言葉による文章も楽しい絵本です。

絵本・マドレーヌ、ホワイトハウスに行く

ジョン・バーメルマンズ・マルシアーノ作、

江國香織訳、BL出版

キャンドルという女の子に会うためにアメリカにやって来た、マドレーヌと11人の女の子たちは、ホワイトハウスでのイースターのお祭りを楽しみます。そして、お別れの前の晩におこった、素敵な出来事とは……。

マドレーヌのお話が誕生して、今年で75年。この機会に、この元気な女の子のお話を楽しんでみてください。シリーズでどうぞ。

絵本・ライオンをかくすには

ヘレン・スティーヴンス作、さくまゆみこ訳、

フロンヌ新社

ある暑い日、1頭のライオンが、町へ帽子を買いにやってきます。でも、町の人たちに追い出され、逃げ込んだのは、アイリスという女の子のところ。アイリスは、ライオンを隠そうとしますが……。

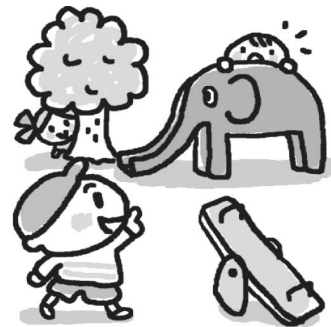
心優しいライオンと女の子のお話。一緒にライオンの隠し方を考えてみてください。

絵本・ぐるんぱのようちえん

西内みなみ作、堀内誠一絵、福音館書店(こどものとも絵本)

いつも一人ぼっちで泣いていた、ゾウの子ぐるんぱは、町へ働きに出されます。まず行ったのは、ビスケット屋のびーさんのところ。ところが、特大ビスケットを作ってしまう……。

リズムカルな文章と明るい絵の楽しい絵本。どんなものでも、いつかきっと、役に立つときがくるものですよ。



科学絵本・ハートのはっぱ かたばみ

多田多恵子文、広野多珂子絵、福音館書店、

(かがくのとも絵本)

‘かたばみ’を知っていますか。特徴は、小さな3つのハート型の葉っぱです。植木鉢の隅、コンクリートの隙間など、私たちの身近なところで見つけることができます。この本は、そんな‘かたばみ’について、簡潔な文章と、繊細な絵で解説した絵本です。たまには、足元をじっくり見つめてみるのもいいものですよ。



☆ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は
時間
場所

5月16日(土)、6月20日(土)
午後3:00～3:30
西部図書館 お話し会のへや





☆ 梅雨入りしました！

今年は、ゴールデンウィークの頃から真夏のようにでしたが、やっと梅雨入りです。雨は、これからが本番ですが、その前に、雨降り気分を満喫する絵本を集めてみました。雨だからと言って、家の中にもこもっていないで、たまには、雨の日の散歩も楽しいですよ。



雨、でも…



絵本・あめ あめ あれれ

梅田俊作・梅田佳子作 童心社

「あめ あめ あれれ？ うたっているよ」

雨の日のお出かけはとても楽しい。カエルにクラゲ、ペンギンまで飛び出してきて……。

躍動感あふれる線画と、やさしい水彩の絵が、リズムカルな文章を引き立てた楽しい絵本。雨の日、家にこもっているのがもったいなくなりますよ。

絵本・コッコさんとあめふり

片山健作・絵 福音館書店(幼児絵本シリーズ)

毎日、毎日、雨降りです。そこで、コッコさんはテルテル坊主を作りましたが、雨は、ちっとも止みません。考えたコッコさんは、テルテル坊主の中に、手紙や宝物を入れますが……。

晴れを待ち望む気持ちが詰まった絵本。雨の風景も美しいですが、はれ上がった夏の風景は圧巻ですよ。

絵本・おふろばをそれいろに

ぬりたいな

ルース・クラウス文、モーリス・センダック絵、大岡信訳 岩波書店(岩波の子どもの本)

男の子は、もし自分の家を作ったら、と考えます。お風呂場は空色、台所は黄色、遊び場の壁は真っ白で、カメさんをいっぱい描く。夢はどんどん広がって……。

詩情豊かな文章と、淡い色彩の絵で、空想の家を美しく描いた絵本。思いのままにできた夢の家は、きっと、とても楽しいところになるでしょうね。

絵本・あおくんときいろちゃん

レオ・レオーニ作 藤田圭雄訳 至光社

青い小さな丸があおくん、黄色の小さな丸がきいろちゃん。ある日、仲良しのきいろちゃんを探し回っていたあおくんは、やっと町で見つけて一緒に遊ぶうち、緑色になってしまい……。

美しい色彩の抽象的な絵が、主人公の気持ちを生き生きと描き出した1冊です。幼い子にも。



科学絵本・杉山きょうだいの しゃぼんだまとあそぼう

杉山弘之・杉山輝行文・構成 吉村則人写真、平野恵理子絵 福音館書店(かがくのとも絵本)

子どもの頃に遊んだことのあるシャボン玉。ストローで飛ばすばかりではありません。台所用品を使ったり、サンダルでも飛ばせます。いろいろな道具で、いろいろなシャボン玉を飛ばすアイデアが詰まった絵本。梅雨の晴れ間、試してみたいかがですか。



☆ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

今回は
時間
場所

7月18日(土)、8月8日(土)
午後3:00～3:30
西部図書館 お話し会のへや





みみずく通信

No.74
2015.7.18

発行：すばなしの会みみずく

HP：www.h4.dion.ne.jp/~mimizuku/

☆ もう、夏休み

まだ梅雨明けしていないというのに、もう、真夏のような暑さが続いています。連日、テレビでは、猛暑日を伝えていたり、夏台風が来たりと、異常気象が続いていて、暑さももうたくさん！ という感じですが、これからが、夏休み本番！ そこで、今回は、長い夏休み、たまには、科学の目を開いてみてはいかがでしょうか。意外と病み付きになるかもしれませんよ。



実験！ 観察！



科学絵本・みず

長谷川摂子文、英仲三写真、福音館書店

やさしい水、愉快的な水、恐ろしい水、いろいろな水があります。川、海、プール、池、公園、いろいろな所にもあります。これは、そんな水を、美しい写真で綴った絵本です。雨上がり、クモの巣に付いた水玉、池に広がる水文、そして、つららだつて水ですよ。

科学絵本・ちいさなちいさな

～めにみえないびせいぶつのせかい～

ニコラ・テイビス文、エミリー・サットン絵、越智典子訳、出川洋介監修、ゴズリン書房

クジラのように大きな動物もいれば、アリの触角1本の上に、何千万も乗ってしまうような生物もいます。これは、そんな、目に見えないほど小さな生物、微生物について書かれた本です。いろいろな大きさや形。悪いもの、良いもの、そして、とんでもなく大きな仕事をするものなど、分かりやすく解説されています。

科学絵本・ホネホネ絵本

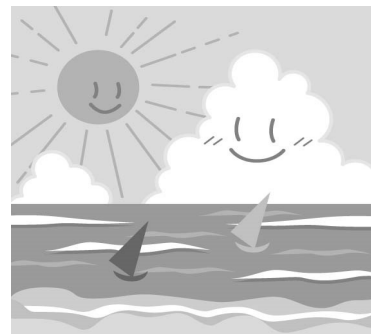
スティーブ・ジェンキンス作、千葉茂樹訳、あすなろ書房

いろいろな動物の骨を、美しい切り絵で紹介した科学絵本です。実物大の大きさで、様々な動物の骨を比較したり、206個のヒトの骨を全部出して、組み立ててみたりと、構成もこっています。中でも、折り込み4ページに、実物大で再現された、2メートルのニシキヘビの骨格は、小型のものとはいえ、圧巻ですよ。

科学絵本・育てて、発見！「ゴーヤー」

真木文絵文、石倉ヒロユキ写真・絵、福音館書店

最近では、グリーンカーテンとしても知られるようになってきた“ゴーヤー”。実際に育ててみないとわからないことがたくさんあります。この本では、育て方から、その特徴、料理法まで、写真入りで、詳しく解説しています。熟した種の周りは甘いつて、知っていましたか？



絵本・ありとすいか

たむらしげる作、ポプラ社

ある暑い夏の午後、アリがスイカを見つけました。‘これはうまいぞ。巣に運ぼう。’でも、どうやって？ 一人で押しても、みんなで押しても動きません。そして、思いついたのは……。

見開きいっぱい、真っ赤なスイカが印象的な絵本。小さなものが、大きなものを運ぶって、結構大変ですよ。



今回は

8月 8日 (土)、9月 19日 (土)
10月 17日 (土)

時間
場所

午後 3:00 ~ 3:30
西部図書館 お話し会のへや



☆ 追悼・マーシャ・ブラウン

去る、4月28日、日本では『三びきのやぎのがらがらどん』の作者として知られる、アメリカの絵本作家、マーシャ・ブラウンさんが亡くなりました。96歳でした。自作の絵本はもちろんのこと、世界中の昔話を絵本にするなど、子どもたちにたくさんの楽しいおはなしを届けてくれました。そこで、当会でも、マーシャ・ブラウンを追悼して、ほんの一部ですが、マーシャの楽しい絵本をご紹介しますと思います。一作一作、個性的なマーシャの絵本の世界をお楽しみください。

昔話絵本・三びきのやぎのがらがらどん マーシャ・ブラウン絵、瀬田貞二訳、福音館書店

名前はどれも「がらがらどん」という3匹のヤギが、山の草場へ出かけていきます。けれども、途中の谷川の橋の下には、恐ろしいトロールがいて…

リズムカルで、繰り返しの楽しい絵本。力強く、迫力のある絵で、物語の雰囲気余すところなく描き出しています。マーシャの代表作です。

昔話絵本・ダチョウのくびは なぜながい？ ヴァーナ・アーダマ文、マーシャ・ブラウン絵、 松岡享子訳、富山房

ずっと昔、ダチョウは首が短くて、不自由をしていました。ある日、ダチョウが川で水を飲んでいると、ワニが、虫歯が痛いので見てくれ、と言ってきます。そこで、ダチョウが、ワニの口の中に頭を入れると……。

力強く、豪快なペン画で、ユーモラスに、ケニアの昔話を描いています。

昔話絵本・パンはころころ マーシャ・ブラウン作、八木田宜子訳、富山房

おばあさんが、やっと集めた二握みの粉。それで焼いたパンは、おばあさん、おじいさん、野ウサギなどから逃げ出して、最後に出会ったキツネからは？

生き生きとした表情の絵と、歌いだしたくなるような、リズムカルな文章の絵本。今年『パンぼうや』のタイトルで、童話館出版より再版されています。

昔話絵本・もりのともだち マーシャ・ブラウン作、八木田宜子訳、富山房

冬の間、野ウサギは木の皮で家を作り、キツネは氷で家を作って、仲良く暮らしていました。けれども、春になって、氷が解けてしまうと……。

力強い線で、表情豊かに、ロシアの昔話を描いた絵本。キツネが、自分より弱いものに負けるところも、子どもたちの共感を得られますよ。



絵本・ちいさなヒッポ マーシャ・ブラウン作、内田莉莎子訳、偕成社

カバの子ヒッポは、生まれた時から、お母さんと一緒です。お母さんから、大切なカバの言葉を教えてもらったヒッポが、ある日、大人たちが寝ている間に、明るい方へ行ってみると……。

力強く、美しい木版で、母と子の愛情を描いた、心温まる絵本。見返しまで美しい絵本ですよ。

☆ おはなし会のお知らせ

※ 8月のおはなし会は、第2土曜日に変更になりました。お気を付け下さい。



次回は **8月8日(土)、9月19日(土)、10月17日(土)**
時間 **午後3:00～3:30**
場所 **西部図書館 お話し会のへや**



☆ もう、秋です。

今年は、いつまでも暑いと思っていたら、突然秋がやってきました。木々も色づき始め、吹く風も冷たくなってきました。そこで、今回は、秋を満喫する本を集めてみました。十五夜は終わってしまいましたが、スーパームーンを見逃した方は、絵本で楽しんでください。



今は、秋



絵本・もりのなか

マリイ・ホール・エッツ文・絵、間崎ルリ子訳、福音館書店

‘ぼく’は、紙の帽子をかぶり、新しいラッパを持って、森へ散歩に出かけます。そこへ、ライオン、ゾウ、クマなどがついてきて行列に。そして、みんなでかくれんぼをしていると……。

黒一色の絵が、幼い子の心を色鮮やかに描き出した絵本。リズムカルな文章も耳に残る一冊です。

絵本・くんちゃんはおおいそがし

ドロシー・マリイ作、間崎ルリ子訳、ペンギン社

ある朝、こぐまのくんちゃんは、起きてすぐに、‘きょうは なにを しようかなあ’と考えました。ところが、お母さんのお手伝いをして、ご飯を食べてしまうと、もうすることがありません。そこで、外へ出て行ったくんちゃんは……。

あっさりした線画と、簡潔な文章で、幼い子どもの心を描き出した絵本。何もない時間の大切さを教えてくれます。

絵本・あたまにかきのきー日本民話一

唯野元弘文、村上豊絵、鈴木出版

ある日、のんきな男、が柿の木の下で昼寝をしていると、頭に柿の実が落ちてきます。男は、びっくりしますが、そのままにしておく、やがて、柿の木が生えて、実がなり……。

突拍子もない日本の昔話を、軽快な文章と、コミカルな絵で描いた絵本。ありえない展開に、思わず笑ってしまいますよ。

絵本・14ひきのおつきみ

いわむらかずお作、童心社

今夜は十五夜。14ひきは、木の上にお月見台を作ります。お団子、栗の実、ドングリをお供えて、お月さまが昇るのをみんなで待ちます。

細部まで描きこまれた絵と、美しい色彩の絵本。夕暮れ色に染まる空から、木々の間に浮かぶ月の情景へと移ろっていく様子も見ものです。シリーズでどうぞ。



絵本・まんげつによるまでまちなさい

マーガレット・ワイズ・フラウン作、

ガス・ウィリアムス絵、松岡享子訳、ペンギン社

大きな栗の木の根方に、アライグマの坊やが、お母さんと一緒に住んでいました。坊やは、夜が見たくてたまりません。夜って、暗いの？ 何色をしているの？ 大きいなの？ お母さんに聞きますが、お母さんの答えは、いつも、「まんげつによるまで まちなさい」で……。

お母さんと坊やのやり取りも心温まる絵本。待つことの楽しさを教えてくれます。



☆ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は
時間
場所

11月21日(土)、12月19日(土)
午後3:00～3:30
西部図書館 お話し会のへや





☆ Merry Christmas & Happy New Year

街中がキラキラと輝いて、ワクワク、せかせかとする季節が今年もやってきました。そこで、今回は、クリスマスの絵本をたくさん集めてみました。クリスマス・イブのお話を中心に、大きい子向けの本も載せてみましたので、お子さんと一緒に楽しんでみてください。

それから、来年の干支、サルの本も載せましたので、ご一緒にどうぞ。



メリー・クリスマス



絵本・こねこのクリスマス

なかえよし作、上野紀子絵、教育画劇

クリスマス・イブの夜、捨てられた子ネコが雪の中を震えながら歩いていました。歩き疲れた子ネコは、物陰で休んでいるうちに眠ってしまい……。

控えめで、かわいらしい女の子と小さな捨て猫の心温まるお話。どの子にも、きっと、サンタクロースからの贈り物は届くものですよ。

絵本・ホワイトクリスマス「雪」

ウォルター・デ・ラ・メア詩、カローリーナ・ラベイ絵、海後礼子訳、岩崎書店

クリスマス・イブ、家族で準備をしていると、雪が降り出してきました。その雪は、しんしんと降り積もり……。

イギリスの詩人、デ・ラ・メアの、雪の日の情景を、抒情的にうたった詩に、楽しくて、かわいらしい絵がつけました。クリスマスの楽しい一日を綴った絵本です。



絵本・ゆうぐれ

ユリ・シュルヴィッツ作、さくまゆみこ訳、あすなろ書房

クリスマスが近づいたある日の夕方、男の子とおじいさんが散歩に出かけます。川のほとりで沈んでゆく夕日を眺め、ゆっくりと暮れていく町を歩きます。やがて、夜が来て……。

だんだんと暗くなっていく情景、にぎやかに輝くイルミネーションを、美しい色彩で、情緒豊かに描き出した絵本です。



絵本・急行「北極号」

C・V・オールスパーク絵文、村上春樹訳、あすなろ書房

クリスマス・イブの夜、「ぼく」がベッドで、サンタクロースの来るのを待っていると、やってきたのは、蒸気機関車、急行「北極号」。「ぼく」が乗り込むと、汽車は北へ北へと向かい……。

美しい絵の、素敵な絵本。子どもの頃の奇跡は、信じていけば、きっと、大人になっても色あせないものですよ。

★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください。

次回は
時間
場所

2016年 1月16日(土)、2月20日(土)
午後3:00～3:30
西部図書館 お話し会のへや



☆ まだまだあるよ、クリスマス。

読物・クリスマス

バーバラ・クーニー作、安藤紀子訳、ロクリン社

もうすぐクリスマスがやってきます。この本は、その由来について書かれた本です。なぜクリスマスにイエス様の誕生を祝うの？ クリスマスにはどんな行事を行うの？ サンタクロースって？ そんな疑問を、丁寧な文章と美しい絵で解説してくれます。少し大きな子にどうぞ。



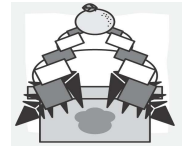
読物・クリスマスのりんご

～クリスマスをめぐる九つのお話

ルース・ソーヤー、アリソン・アトリー他文、上條美恵子訳、たかおゆうこ絵、福音館書店

この本は、クリスマスの雰囲気盛り上げてくれるお話が、9つ入った短編集です。どれもみんな、不思議で楽しいお話ばかり。かわいい挿絵もすてきです。一人で読むには、大きい子でないと無理ですが、小さなお子さんでも楽しめるお話ばかりです。ぜひ、読んであげてください。

来年は、申年



絵本・ひとまねござるときいろいろし

H・A・レイ文・絵、光吉夏弥訳、岩波書店

ジョージは、知りたがり屋で、人まねが大好きな子ザル。ある日、黄色い帽子のおじさんに連れられて、アフリカから大きな街へやってきましたが……。

幼い子どものように好奇心旺盛で、いたずら好きな子ザルが主人公の人気シリーズ。小型の“子どもの本”のシリーズの中にもありますが、ぜひ、大型本で楽しんでみてください。シリーズでどうぞ。

絵本・おさるとぼうしうり

スロポドキーナ作・絵、松岡享子訳、福音館書店

帽子を頭に高く積み上げて、背筋をしゃんと伸ばした帽子売りが、町から町へと帽子を売って歩きます。ところが、ある日、帽子売りが木の下で休んでいると、帽子が一つもなくなってしまいます。さて、犯人は？

サルと帽子売りのやり取りも楽しい絵本。絵も愉快ですよ。

絵本・さるのオズワルド

エゴン・マチーセン作、松岡享子訳、こぐま社

ちいちゃなサルのオズワルドが仲間とおしゃべりしていると、ボスザルのいばりやがやってきます。みんなは、いばりやの命令には、なんでも従わなければならないのですが、ある日、オズワルドが、「いやだ！」と叫ぶと……。

言葉遊びもちりばめられた楽しい絵本です。



絵本・さる・るるる

五味太郎作、絵本館

あるサルの1日を描いた言葉遊びの絵本です。「さる・くる」、「さる・みる」など、サルと二文字の動詞のみで綴られた文章に、コミカルな絵が添えられた絵本。絵を見ているだけでも、いろいろな物語が作れますよ。親子で話しながら楽しんでみてください。

★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください。

次回は
時間
場所

2016年 1月16日(土)、2月20日(土)
午後3:00～3:30
西部図書館 お話し会のへや



☆ もう少しだけ、冬を…

もう立春が過ぎたというのに、まだまだ寒い日が続いていますね。それでも、街路樹や庭木などの冬芽も、顔を出すのを今か、今かと待ちわびている気配を感じます。そこで、今回は、もう少しだけ冬を楽しむ本を集めてみました。暖かい日もありますが、もう少しだけ、冬を楽しんでみてください。



まだまだ、冬



絵本・てぶくろ ～ウクライナ民話～

エウゲーニー・M・ラチョフ絵、内田莉莎子訳、福音館書店

雪深い冬の森の中、おじいさんが落としていった手袋を見つけて、ネズミが住み着きます。そこへ、カエル、ウサギ、キツネ、と次々やって来て…

動物たちのやり取りの繰り返しが楽しい絵本。民族色豊かな絵や、動物が増えるにつれて家らしくなっていく手袋の様子も楽しいですよ。

絵本・月夜のみみずく

ジェイン・ヨーレン詩、工藤直子訳、

ジョン・ショーエンヘル絵、偕成社

冬の夜、周りが寝静まった頃、“わたし”は父さんと雪の森へ出かけます。ミズクに会いに行けるこの日を、“わたし”はずっと楽しみに待っていたのです。

ミズクに会うために、森深くへと入っていく少女の心の動きを、叙情豊かに描いた詩の絵本。美しい絵も文章を引き立てています。

絵本・セーターになりたかった毛糸玉

津田直美作、フロンヌ新社

とあるお店の片隅に、セーターになることを夢見る、10個の毛糸玉がいました。ある日、おばあさんに買われた毛糸玉は、一つを残してセーターになります。残った1個の毛糸玉は、小さな手袋になるのですが……。

小さな毛糸玉の大冒険。かわいらしい絵の心温まるお話です。

科学絵本・しもぼしら

細島雅代写真、伊地知英信文、岩崎書店

寒い冬の朝、地面を真っ白に染めて立っているのは霜柱。この本は、その霜柱のできる様子を、美しい写真と、分かりやすい文章で解説した写真絵本です。小さな氷の粒が立派な霜柱になる様子や、いろいろな姿の霜柱が紹介されています。朝、少しだけ早起きして、地面を観察してみるのも楽しいですよ。



絵本・まゆとおに

～やまんばのむすめまゆのおはなし～

富安陽子文、降矢なな絵、福音館書店

ある日、やまんばの娘・まゆは、雑木林の奥で、とんでもなく大きな人に会います。その人が、おなかをすかせた鬼だとわからなかったまゆは、鬼の家までついていってしまい……。

元気で力持ちで、かわいらしい女の子まゆのお話。まゆと鬼のやり取りも楽しいですよ。



☆ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は **3月19日(土)、4月16日(土)**
時 間 **午後3:00～3:30**
場 所 **西部図書館 お話し会のへや**



* 尚、3月19日(土)は、春のおはなし会を開催します。どうぞ、お立ち寄りください。